

令和 6 年度 第 5 回太子町地域公共交通会議概要

日 時：令和 7 年 2 月 18 日（火） 午後 3 時～午後 4 時 30 分

場 所：太子町立万葉ホール

議 題：

- （１）改善内容の具体案について
- （２）その他

議事内容：

（１）改善内容の具体案について

（資料 1 に基づき、事務局より説明）

《質疑応答》

猪井会長 近鉄電車のダイヤは変更されたか。

事務局 2 月 22 日から改正ダイヤで運行される。数分程度の若干の変更がある程度であった。コミュニティバスのダイヤ改正時には、その点も踏まえ更新を行う。

高谷委員 前回の会議で両替機の設置を要望したが、今回出された改善の方向性では、なぜ中期的な改善と位置づけられているのか。利用者は不便な思いをしているので、短期的な改善として早期に実現してほしい。

猪井会長 現状は運転手が手作業で両替をしてくれているが、その辺りについての検討はどうなっているか。

事務局 現状では利用者に小銭をご用意いただくよう協力をお願いして運行している。もし小銭をお持ちでない方がいる場合には、便宜上運転手による両替で対応している。早期の両替機の設置を望まれるのはもっともなことだと思うが、両替機や回数券等の導入には財源的な問題もあり、すぐには難しい。少し時間をかけて対応を考えていきたい。

西田委員 資料 1 の 1 ページにこれから取り組むべき課題が挙げられており、このうち実現の目途が立っているのが 2～3 ページの①～④だと思うが、例えば②の商業施設前のバス停の新設は、具体的にどこにできるのか疑問である。それに、す

ぐに実現できることが本当にこれだけなのか、1 ページに書かれている「主な意見」として挙げられている取り組み課題もこれで本当に十分なのか疑問である。例えば「バス停の移動・増設」とあるが、バス停環境の改善は検討しないのか。喜志駅では寒い中や暑い中でバスを待たなければならず改善が望まれるが、これはなぜ改善の方向性に含まれないのか。①の乗り継ぎ券の発行も財源が必要になるが、とりあえず①～④までは実現していくということで間違いないか。

事務局 ①～④に関して取り組みを進めていきたい。

西田委員 ①はお金のかかることだがどうするのか。②はバス停の場所が決まっているのならどこなのかを教えてほしい。

猪井会長 ①は実施について協議会で同意を得られたら、町の予算を確保していく流れになると思うが、それで間違いないか。

事務局 乗り継ぎ券に関しては、公共交通会議で一定の方向性を決め、実施するにあたっては予算措置が必要になるので、その対応を進めていく。
また商業施設前のバス停については、あくまでも検討段階のものだが、ラ・ムーの近くで町道太子西条線の東側の歩道上に新設する予定である。ここに関しては、歩道と道路の間に植栽等があるので、その辺りの改修工事が必要になる。

猪井会長 それから西田委員から話のあったバス停で寒い中待たなければならないという件だが、私は今日喜志駅からこちらに来る際に、15 分ほど待ち時間があって寒い中でバスを待たなければならないと思っていた。ところが既にバスが待機しており、中に入れてくれたので、寒い外で待たずに済んだ。このように以前よりバス待ちについても改善されているのだと感じた。本当は建屋を設置するなどの改善ができればよいのだが、それも簡単にできることではないので、このような形で努力して改善されていることを個人的には感じた次第である。
あと西田委員は短期で他にも取り組めることはないかという指摘だったと思うが、現段階では検討を重ね、現実的に対応可能なものを抽出し、これらに注力されていくということなのだと思う。

事務局 今回の趣旨としては、バスを利用されている方の生活リズム等もあると思われ、それを崩してしまうような改善はすべきでないというところも考慮している。だから、路線を大きく“変える”というよりは利便性に繋がるものを“増やす”と

いう方向での改善に重点を置いている。今後、“変える”べきところの改善についても引き続き検討していきたいと考えている。

猪井会長 スケジュールを確認すると、ダイヤなどの具体的な内容は3月24日の第6回交通会議で確認いただくことになっているので、本日は短期的な改善事項として①～④を事務局から提案させてもらっているということである。現行の体制で走り始めてからまだ1年2カ月くらいなので、大きく変えてしまうと唐突感が出て直ぐになじまない恐れがある。実際に皆さんの生活にどれだけ馴染んでいるのかを確認しつつ、その中で変えられるものを変えていくという方向で、特に問題ないと思うがどうだろうか。

高谷委員 ルートの変更について書かれていないが、以前から言われている総合体育館へ行くルートがないので、このルートの検討はされるか。

猪井会長 総合体育館まで行くことで、全体の便数が減らないかという心配があるが、この辺りについてどうだろうか。

事務局 ルートの変更については今後の検討課題であると考えている。ただ、バスの台数は変えられないので、総合体育館に行くとなると、その分どこかのルートを削らなければならないため、そうしたことも含めて検討しなければならない。先ほど話したとおり、皆さんが生活の中でバスを利用するルーティンのようなものもあると思うので、変更にあたってはそうしたところも慎重に見極めながら検討していくことになると考えている。

猪井会長 総合体育館に行く必要性をご指摘いただいたので、実際に行けるかどうかは今後の検討課題としたい。
今回の方向性は理解いただけたと思うので、具体的なダイヤについては近鉄電車のダイヤ変更も踏まえて3月24日に提示してもらい、ご議論いただければと思う。

西田委員 ④のところで「上ノ太子駅・役場からの回送を活用し」と書いてあるが、現状で何回回送が走っているのか。

事務局 1日4～5回、回送が走っている。一番わかりやすいのは始発便で、1号車2号車ともに上ノ太子駅から出発することになっているが、バス自体は役場から出発するので、そうした便が現状では回送になっている。

ただ、4～5回の回送があるとはいえども、接続の問題等があるので、ダイヤを組んでみないと実際にどれくらい活用できるかはまだわからない。

西田委員 回送の活用については、運転手を追加で確保する必要はないということで大丈夫か。

事務局 現状で1号車は1人、2号車は2人の運転手が勤務しており、その運行体制の勤務時間内で休憩時間もきちんと確保する中でダイヤを組むことになるので、追加の要員確保や委託料はないと考えている。

佐藤委員 ①～④の改善内容は、何月からスタートするのか。

事務局 ①～④については、予算や周知の関係もあり、一括で実施したいと考えている。はっきりとした時期はまだ決まっていないのだが、予算の関係で言えば、例えば6月補正で上げて、その後準備を行い、9月頃に実施といった流れなどが考えられる。

土井委員 回送便を活用するということは、直行便のみになるということか。それとも通常のダイヤのように途中の停留所も止まるのか。

事務局 現状で考えている回送便の活用は、上ノ太子駅から役場まで直行便である。

高谷委員 乗り継ぎ券の発行について「近鉄バスとの乗り継ぎは今後の検討課題」となっているが、何が障害で同時に実現できないのか。

猪井会長 私が聞いているのは、料金箱が精緻になってきており、そこに紙が入るのは避けたいという技術的な問題があるらしい。ただ、他のバス事業者と自治体とで、システムの問題を解消するための試みをしているところもあるので、研究してもらえればと思う。もう一つの問題が減収である。バス事業にとってはやはりネックになるので、そこを支援するなどが必要になるかもしれない。現実的には多くの自治体で実現できていない。意外に難しい問題なので、少しずつ調整していくしかない。

事務局 会長の話のとおり、難しい問題である。例えば近鉄バスでは IC カードが使えるが、そこで乗り継ぎ割引で100円引きができるようにするとすると、そのシステム開発に億近い費用がかかるということである。また例えば、料金箱に入

れないような大判の乗り継ぎ券を発行するにしても、現金のみの対応になってしまう。このように導入に向けての壁が高く、実現がなかなか難しい状況である。

猪井会長 IC カードのシステム更新費用が高いことは、京阪バスなど他のバス事業者も苦慮しており、これは近畿全体で問題になっている。乗り継ぎ券の件はアナログな対応で考えなければいけないかもしれない。

では、他に意見がなければ、今回事務局から提案させてもらった短期的な改善内容について、次回の第6回会議にて具体案を提示してもらい、それについて議論していただいた上で、次年度に向けて決定していきたいと思う。

(2) その他

○喜志駅、上ノ太子駅での時間帯別バス乗降人数について

(資料2に基づき、事務局より説明)

○太子町コミュニティバス利用実績(R6.1～R7.1)について

(資料3に基づき、事務局より説明)

○4市町村地域公共交通活性化協議会 利用促進検討分科会への金谷委員選出の報告、及び令和7年度～8年度の4市町村協議会への委員選出について協議
(事務局より報告及び説明)

《質疑応答》

高谷委員 資料3で、町より発行された施設等利用券を使用したコミバスの乗車実績として11月から今年の1月の状況が挙げられている。これを見ると11月から1月まで徐々に利用枚数は減っているが、これは手持ちの利用券が減っていくから仕方がないとして、併せてコミバスの月別利用実績を見ると、この利用券が使用されている11月から1月の乗車人数が増えている。これはつまり住民の皆さんはバスで出かけたたくないということではなく、バスに乗るかどうかはお金の問題で、割安で利用できるのであればバスに乗るということである。だから以前のようにお出かけ支援とか乗り継ぎ券を発行して一人でも多くの人がバスを利用できるようにしてもらいたい。そうすることで健康増進にも繋がると思うので、ぜひとも検討してもらいたい。

猪井会長 施設等利用券は次年度以降も配布予定か。

事務局 施設等利用券は物価高騰支援事業として国からの補助を得て実施しているので、

基本的には令和7年3月末で終了する。

猪井会長 了解した。高谷委員のご指摘は、この効果を見て施策を検討してほしいという要望であった。

土井委員 利用券の件だが、確かに11月から乗車人数が増えており一定の効果が見られると思う。しかし、2月3月あたりから見ると自然に増えた可能性もあるので、もう少し様子を見て議論をしたほうがよいだろう。必ずしも利用券の効果だけではないかもしれない。3月いっぱいまでが利用券の使用期間なので、それ以降の人数の把握もしてもらい、検討したらよいと思う。

西田委員 資料2の乗降人数だが、これはある1日のデータである。私は金曜日の朝に上ノ太子駅にいたが、こんなに少なくないのではないか、朝7時台などはもっとたくさんの人がバスから降りてくるイメージである。1日だけのデータを見て判断できるのだろうかと思った。あと乗降客のいないバス停は、場所が悪いのかルートが悪いのか、それとも本数の問題か、考える必要があると思うが、今後このデータをどう役立てていくつもりか教えてほしい。

猪井会長 このデータは昨年の9月6日が調査日となっている。これは4市町村協議会がOD調査を行った結果ということか。

事務局 はい。4市町村協議会が地域公共交通計画の策定にあたって実施したOD調査の結果である。

猪井会長 そうということなので、かなりの費用と手間をかけた調査であり、OD調査でこれ以上のものを求めるのは難しいだろう。これ以上のデータを集めるとしたら、あとはICのデータになると思うが、ICのデータはあるのか。

事務局 ICデータで個別の乗降状況は把握できないが、金額だけはわかるので、そこから割り戻して1日の乗降者数は把握している。
今後またOD調査は必要になってくると思うので、例えばこの調査結果で上ノ太子駅の朝7時台が少なくなっていることなどについて、その日に何かしらの条件が重なり特異日になったのかどうかといったことは、今後改めて調査できればと思う。

猪井会長 OD調査は多額の調査費用がかかるので、なかなか何度もできるものでなく、

限られたデータを活用しているのがこの業界全体の現状と言える。

西田委員 定期券の利用者はどのくらいいるのか。定期券の購入促進ができれば、朝晩の利用者も増えるのではないか。

事務局 今、手元に定期券利用者のデータはないのだが、通学定期は少なく大部分が通勤定期の利用となっており、感覚的なところで 50 人くらいだと思う。正確な数字は改めて確認しておく。

猪井会長 4 市町村協議会の委員選出について事務局から説明があったが、岡崎委員、金谷委員の両委員に継続いただくこと、分科会には金谷委員に参加いただくことについて、何かご意見等はあるか。

土井委員 岡崎委員は和光会をまとめていただいております、金谷委員には区長会、並びに各町会長、自治会長の意見を集約して協議会に参加いただいていると思うので、引き続き両委員に参加してもらいたいと思う。

猪井会長 今、土井委員からこのような提案があったがよろしいか。

西田委員 金剛バスがなくなり、4 市町村協議会が立ち上がり、どこの自治体も大変な中、急に選出されてその責務を果たしてもらい、本当にありがたいと思う。
一つ確認したいのだが、この選出は区長会などの役職名で選ばれているか、それとも人物で選ばれているのか。役職名であるとしたら、今後もこの役職の人が選ばれていくことになるのか。

猪井会長 私個人としては、両名の個人的な資質の部分があると思うが、先ほど土井委員が述べられたように、区長会等の意見を集約される立場にあるということで、役職の部分もあると思うが、事務局はどう考えているか。

事務局 4 市町村協議会で定められている正式なところは、「地域公共交通会議で選出された住民」となっている。その他の要素で申し上げると、例えば社会福祉協議会の会長や、区長会会長など、様々な役割の方々を 4 市町村で補い合いながら選出させてもらっているという要素もある。そうしたことも鑑み今回事務局からは、岡崎委員、金谷委員に続投いただくことを推薦したい。

猪井会長 西田委員の質問は、役職で選ぶのか人物で選ぶのかということであったが、こ

れについてはどうか。

事務局 両方である。

猪井会長 では、岡崎委員、金谷委員に4市町村協議会の委員を継続いただくということ
でよろしいか。

委員一同 異議なし。

猪井会長 では、来年度も両委員に継続いただくことで決定する。
他に事務局から何かあるか。

事務局 先ほど、回送便の活用について、駅から役場まで直行すると申し上げたが、途
中のバス停に停車することも含めて検討するので、直行便の件は訂正させてい
ただきたい。

猪井会長 他に何かご意見等あればお願いしたい。

金谷委員 4市町村の協議会の委員を引き続き務めることになったので、しっかりとその
責務を果たしていきたい。本日の議事内容については、多方面に手を伸ばすの
ではなく、まずはできることから取り組んでいくのがよいと思う。
それで先般、コミュニティバスの運転手が業務中に具合が悪くなり、救急車で
運ばれたと聞いた。コミュニティバスの運転手の日々の健康管理はどのように
行っているのか。

事務局 出勤したらまずアルコールチェックを行う。運転手が結果を会社に報告し、確
認されたら運転業務に入ることになる。
救急搬送された運転手の件は、私もその日に連絡を受けたのだが、運転手が途
中で体調が悪くなったため、自分で救急車を呼び、会社と役場に連絡を入れた
ものである。運転手には後日改めて健康診断を受けてもらい、特に問題はなか
ったと聞いている。ただ、皆様にご心配とご不便をおかけしたと考えている。

猪井会長 中村委員にお聞きしたいのだが、ドライバーの健康管理について、国としては
どのようなことに取り組まれているか。

中村委員 健康管理については、年に1回健康診断を受けること、深夜勤務がある場合は

年に2回健康診断を受けることが労働局から指導されていると思う。また日々の健康管理も顔を見ながら点呼をしてもらい、またガイドラインも作成しているので、それに基づいた健康管理をするように指導を行っている。

金谷委員 健康管理は引き続きしっかりしていただきたく思うのだが、運転手が高齢化しており、定年を迎えた方ばかりという状況である。若い人も雇用できるような方法を考えてもらいたい。

猪井会長 4市町村協議会でも運転手の裾野を広げていかなければならないということで、検討課題となっている。

猪井会長 その他、委員の皆さまから何かありますか。

近藤委員 新モビリティの導入、自動運転バスの導入について、状況の報告をさせていただく。新モビリティの導入については、関係の市町村に協力いただきながら、知事をトップとする「新モビリティ導入検討協議会」にて検討しているところである。先般2つのルートが決定し、一つが上ノ太子駅から近つ飛鳥博物館までの北部ルートと、もう一つが富田林駅から千早赤阪村役場までを結ぶ南部ルートとなっている。

この1月24日に検討協議会が開催され、令和8年度から行う実証実験の内容について審議を行った。その内容としては、実証実験の到達目標と、バス停や運行日等の運行計画などの検討であった。

実証実験における到達目標としては、令和6年度から実証実験を開始しており、人が介入するレベル2から始めているが、徐々に段階を上げていき、令和10年度に全ての区間において手動の介入率が0%の自動運転レベル4を目指していく。

運行計画については、バス停が決まってきており、太子町が関係する上ノ太子駅から近つ飛鳥博物館を結ぶ北部ルートでは、太子町役場や六枚橋東、それから河南町になるがコメリのある東山というところに決定した。これらは既存のバス停と同じ場所になる。

また運行日については、平日・休日ともに1日4往復程度運行する計画となっている。

機運の醸成に向けての取り組みを行うこととしており、実証運行ルートの一部区間で地域の方に自動運転バスの乗車体験をしていただく「自動運転バス試乗会」というのを3月29日または30日に行う予定となっている。

このように令和8年度の実証実験開始に向けて、関係市町村や事業者の方々と

様々な調整を図りながら進めていくので、引き続きご協力をお願いしたい。

西田委員 このルートは太子町の住民が乗ることがあまりイメージできないのだが、この沿線への対応を何か考えてくれるのか。それから実証運行の間は大阪府が費用を出すのか、実証が終わってからも費用を出すのか。自治体に負担をかけて、結局住民が乗れないような路線が走ることにならないか。費用面で心配無用と言ってもらえるのか。

猪井会長 ルートについてはできるところから少しずつ広げていくということで、最初は途切れ途切れでも仕方がないと思う。ただ、西田委員がお話しのとおり地域の方が使えるところを走行するよう、両睨みでバランスを取っていかないといけないだろう。

自動運転で特にお金がかかるだろうと思うのが、3Dの地図を作らないといけないことである。これはルートになるところに絞って作らざるを得ないので、もし部分的にルートを変えようとする、その3Dマップも作らなければならず、そこにまた数千万円の費用が発生してしまう。あとレベル4の自動運転を令和10年度に目指すとなると、道路の状況がかなり整っているところでないといけないので、自動運転ができる道路を使っていくことになるのだと思う。

近藤委員 お話しいただいたような形で実証実験を行っていく。自動運転レベル4ということで、運転手の介入なしで走行できることになれば、府内の様々な場所で展開できることになるので、そうしたことを目指してまずはできるところから実証実験を行っていく。この段階では会長がお話しのとおり、道路の制約、技術の制約といったクリアしていかなければならないことがあり、各段階でいろいろなことを考えていかなければいけない。

費用については、現状では大阪メトロから協力いただいてバスを走らせる予定で、当然、持続可能な運行にしなければいけないということはある。将来のことは今の時点では何とも言えないのだが、その辺りのこともしっかり考えながら取り組んでいく次第である。

猪井会長 本日も貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。本日議論いただいた改善の方向性を踏まえて、3月末の第6回協議会にて具体的な改善案を出してもらい、皆様にご議論いただきたいと思うので、引き続きよろしくお願いしたい。以上で、令和6年度第5回太子町地域公共交通会議を終了する。

以上